

2024 年 10 月 23 日

出光興産株式会社

三菱商事株式会社

クリーンアンモニア分野における出光興産・三菱商事による共同検討について
~海外からの大規模かつ安定的なクリーンアンモニア サプライチェーン構築の推進を加速~

出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：木藤 俊一、以下「出光興産」）及び三菱商事株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長：中西 勝也、以下「三菱商事」）は、クリーンアンモニア運搬船や輸入受入拠点の効率運用に加え、ExxonMobil が米国テキサス州・ベイタウンで推進するクリーン水素・アンモニア製造プロジェクト※への参画、ならびにアンモニアの引き取りに関し、共同検討することを合意しました。本共同検討により両社の拠点を連携させ、海外から調達するクリーンアンモニアのサプライチェーン構築の検討を加速します。

※製造時に排出される二酸化炭素の約 98%を回収することで、カーボンフリーに極めて近い低炭素水素及び低炭素アンモニアを製造するプロジェクト。本プロジェクトは、2025 年の最終投資決定、2029 年までのクリーン水素（年間約 90 万トン）及びクリーンアンモニア（年間 100 万トン以上）の生産開始を目指すもので、世界最大規模の生産量を見込んでいます。

出光興産は、徳山事業所（山口県周南市）の既設インフラを活用したアンモニア輸入受入拠点を設置し、周南コンビナート各社を含む周辺の事業所と、2030 年までに 100 万トン超のアンモニアを燃料や原料として共同で導入することを目指しています。本年 2 月には国内初となる商業用ナフサ分解炉でのアンモニア燃焼の実証を徳山事業所で行うとともに、5 月には「水素等供給基盤整備事業」として周南コンビナートの 3 社と共に「周南地区アンモニア広域供給拠点、域内パイプライン整備及び燃焼設備検討事業」が採択される等、国内コンビナート競争力強化の先駆けとなるべく、産官学とも連携して地域全体のカーボンニュートラル化に取り組んでいます。

三菱商事は、同社が保有する愛媛県今治市にある LPG ターミナル（以下「波方ターミナル」）をアンモニアターミナルに一部転換することを検討しています。2030 年までに年間約 100 万トンのアンモニアを、電力/運輸/化学など様々な産業用途向けに供給するハブターミナルとすべく、拠点整備に向けた準備を進めています。昨年 4 月には四国・中国地域の潜在需要家様と共に「波方ターミナルを拠点とした燃料アンモニア導入・利活用協議会」の設置に合意、アンモニアの取扱いやターミナルの効率運用・需要拡大策等について協議を重ねてきました。40 年間に亘りエネルギー拠点として活動してきた実績・経験を活かしつつ、地域の脱炭素需要に一早く対応できるよう開発に取り組んでいます。

アンモニアは燃焼時に CO₂を排出せず、既存の輸送手段・貯蔵設備を有効活用できることから、様々な産業での低炭素化・脱炭素化への貢献が期待されています。出光興産と三菱商事の両社は、本プロジェクトで生産されるクリーンアンモニアをこれらの受入拠点を通じ、日本国内に供給することを構想して

います。

両社は、カーボンニュートラル社会の実現に向け、クリーンアンモニアの供給網の構築を検討してまいります。



【各社概要】

出光興産

(設 立) 1940 年

(本 社) 東京都千代田区大手町一丁目 2 番 1 号

(代表者) 代表取締役社長 木藤 俊一

(事業内容) 燃料油、基礎化学品、高機能材、電力・再生可能エネルギー、資源の各分野において、様々なパートナー・顧客との信頼関係をベースに、多様なエネルギーと素材の開発・製造・販売を展開。

三菱商事

(創 立) 1954 年

(本 社) 東京都千代田区丸の内二丁目 3 番 1 号

(代表者) 代表取締役 社長 中西 勝也

(事業内容) 地球環境エネルギー、マテリアルソリューション、金属資源、社会インフラ、モビリティ、食品産業、S.L.C. (Smart-Life Creation)、電力ソリューションの 8 グループ体制で、幅広い産業を事業領域として多角的なビジネスを展開。

<本件に関するお問い合わせ先>

出光興産株式会社 広報部広報課

https://www.idemitsu.com/jp/contact/newsrelease_flow/index.html

三菱商事株式会社 広報部 報道チーム

TEL:03-3210-2171